

加唐島訪問記

中村学園大学 流通科学部

片山 富弘

4年 片山 今日子

佐賀県唐津市にある7つの島、通称「レインボーアイランド」をご存じだろうか。捕鯨基地がとして栄えた「小川島」・椿が咲き誇る「加唐島」・神々が集まる「神集島」・宝くじが当たる神社がある「高島」・美しい教会がある「馬渡島」・国土交通省の島の宝100景に選ばれた「松島」・絶好の釣り場として親しまれる「向島」の7つである。それぞれの島の魅力について述べていきたいが、述べ始めると終わらなくなってしまうので、上記の7つの島のうち、加唐島の訪問記をここに記したい。

私は2014年、片山ゼミナールの活動の一環である島の活性化をするプロジェクトにおいて、7つの島を知り、加唐島を訪れることになった。加唐島は佐賀県唐津市にあり、呼子港から定期船の「かから丸」に乗り約17分のところに位置する。人口は約100人であり、高齢化がとて進んでいる島である。

<加唐島>



私が最初に加唐島を訪れたのは去年の5月ごろ、まだ学校も前期授業が始まって間もないころで、島に関してはほとんど無知の状態であった。未知の世界に期待と不安が入り混じった感情になっていたことを今でも覚えている。島に到着し、早速漁港まで歩いた。漁港に到着すると、数人島の方々が歓迎してくださった。5月だが肌は黒く、腕の筋肉は隆々のお兄さんや、細身ではあるが、厳ついおじさんなどが出迎えてくれ、学生達は半歩下がっていた。しかし、島の方々も若い学生には慣れていないのか、とても無口で笑顔が少ない印象であった。

最初の全体挨拶が終わると、昼食に島の方々が朝5:00から用意をして下さっていたカレーがふるまわれた。島の方々の無口さとは裏腹に、カレーから島の方々の歓迎して下さる思いや優しさを感じ、とても心が温まる昼食であった。そのあとは島の散策を行い、名所である武寧王生誕の地や、椿園を見て回り加唐島を存分に楽しむことが出来た。散策の途中、ウォーキングをする観光客の姿もあり、活性化のヒントを得ることができた。夜にはバーベキューでもてなしてくださり、新鮮なイカの刺身や魚の丸焼きなど、島ならではの魅力をこのバーベキューでも感じる事が出来た。後日、島の事をよく知る人に話を聞いた所、加唐島の方々はシャイであると言う。島の人々は人見知りせずとてもしゃべるとい印象があったが、この島の人々がシャイなところも加唐島の魅力の一つである。しかし、学生と話しているうちに段々と話すように

なり、とても嬉しく感じた。

2日目は漁民センターにおいて、加唐島の魅力や歴史、文化などを学んだ。加唐島が武寧王の生誕の地であることや、韓国との交流が盛んであること、あかもくや椿油などの特産品があること、犬禁制であり島には猫しかいないことなど、様々なお話を聞くことが出来た。加唐島の一番の魅力を聞いたところ、島の方々が口をそろえて「空気が美味しい」と答えた。確かにとても気持ちの良い風が島全体吹いている。

島を離れる際、集合写真を恥ずかしがり拒んではいたが、島の方々のほにかんだ笑顔写真を写真におさめることが出来た。そのあと船着き場まで島の方々が来て下さり、私たちが見えなくなるまで手を振って見送って下さった。

<集合写真>



私が住んでいる街とは、まったく環境が異なり、スーパーもコンビニもない島があることに驚きはしたが、このような経験をできたことがとても貴重であった。また、私が魚好きということもあり、この日以来、私はとてもこの島を気に入っており、去年の5月を含め、5回ほど加唐島を訪れている。

最近では、今年の6月7日に行われた武寧王生誕祭で島を訪れた。加唐島は百済の第25代の王である武寧王の生誕の地であると言われており、日本書紀に出てくる「各羅嶋」が現在の加唐島である。この歴史背景から、加唐島は現在でも韓国との交流が絶えない。武寧王生誕祭には手伝いとして訪れたが、韓国からの観光客がたくさん来島していた。毎年来ていると言う人

や今回初めてですという人、様々ではあったが、加唐島恒例のイカを競争させる「いかさまレース」や新鮮な魚介を使ったバーベキュー、加唐島の人々の手づくりの小物や特産品である椿油やあかもくの購買をとっても楽しんでた。帰りには韓国の方に「また来ます」と日本語で言って頂き温かい気持ちになった。

加唐島方々が全員韓国語を話せるわけではなく、韓国の方々が日本語を流暢に話せるわけでもないが双方が楽しんでおり、言葉や文化の壁がないことに驚くとともに、歴史が繋ぐ異文化交流に感心した。

<武寧王生誕祭>



本来、この島を訪れる目的は島の活性化であると前述したが、実際に島の活性化の提案を、私たち4年生と後輩の3年生が行わせていただいた。様々な案を出し、絞り、あかもくや椿油などの特産品を用いた新商品の提案や、道案内の看板作製、加唐島観光案内所の設置提案などを発表した。島の方々はすごく興味を示して下さり、採用したいという言葉をいただいた。

しかし、最終発表会で前に立ち、マイクをもって発表させていただいたが、私たちが島の人から学んだことの方が多い。私たちはまだまだマーケットの卵である。専門知識も少なく、島の方々には勉強をさせて頂いている。座学では感じるものの出来ない人々の思いに直接触れることが

出来、実際にその場所に行き、空気を吸うこと。それこそがマーケティングの基礎であるという事を感じることが出来た。この事に気づけたのも、島の方々の快い協力があったからこそである。私たちゼミナール生一同を快く受け入れて下さったことに感謝したい。

この文章を読んで加唐島が気になった方は是非島を訪れてほしい。普段の加唐島は無人島ではないかというくらい人はおらず、島の人を見つけて話しかけても無愛想かもしれないが、どんどん話していくと面白い人ばかりである。注意してほしいのは、昼食を食べられるようなお食事所がないということである。昼食をあらか

じめ持っていくという対策は必要になってくる。マイナス点ばかりあげたようになっているが、海が澄んでおり、空気の気持ちいい、人々が温かい島である。私はこの島に惚れ込んだ。ゼミナール活動ではなくとも、今後個人的にも足を運びたいと思うほどである。

まとまりのない不束な文章となってしまったが、これを読んで少しでも7つの島や加唐島に興味を持っていただけたら嬉しく思う。

最後に、加唐島に出会わせてくださった片山教授、唐津市役所の小峰さん、加唐島の緒方区長を始め、関わって下さったすべての方々に感謝したい。